
ハヤテの一存

moe

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハヤテの一存

【Nコード】

N8815Y

【作者名】

moe

【あらすじ】

とにかくグツダグダです。

その2

「なぜ、あのツインテが萌えポイントであるナギたんがここに？」

「お前、だれかは分からんがナギたんはやめろ」

「ナギたんカワユスーーーーー？
-----」

「あ、あの男にモテモテのハヤテさんですね？ま、真冬大ファンで・・・」

「あ、ありがとうございます。えつと真冬さん」

「カオス-----
-----」

「みんなうるさいよ！説明できないよ！もう、静かにして-----」

説明は、次回へ続く！

その2（後書き）

誤字脱字がありましたら言ってください！

その3

「ハヤテのごとくってバトル漫画だよなーーーーー」

「いや、むしろグツグダダが」

「ナギちゃんは、漫画では学校さぼってるけど、実際はちゃんと行ってるんでしょう?」

「いや、漫画の通りだが」

『・・・・・・・・』

「ん、どうした?」

『だめじゃん!!!!!!』

「そういえば、なんでまたハヤテのごとくと生徒会の一存がコラボしたんですか?」

真冬ちゃんが、俺たちのもつとも聞きたかったことを、可愛い顔をして聞く。

「それは・・・・・・・・」

その3（後書き）

これから、お夕飯なのでさよならー！コメよろしくです。

その4

「もお、アカちゃん。そんな理由で、ハヤテさんたちとコラボしてるの・?」

「さらにね、ハヤテさんとナギさんには生徒会の実習生をやってもらうことにしたの!」

「はあああ」

知弦さんが深いそれはそれは深いため息をついた。

「ハヤテさん、ナギさん」

『はい?』

「もう帰っていいわよ。あなたたちも忙しいのでしょ」

「だめだよおおおお」

会長が泣き始めた。それを見て、ぎよつとした顔をする2人。

「だ、大丈夫ですよ!僕たちむしろ暇ですし・・・ねえ、お嬢様?」

「ああ!全然問題ないぞ」

(や、優しい!!--!--!)

それでは、また次回!

その4（後書き）

ハヤテの一存と検索して出てくるもう1つ2つのやつは、間違えて
投稿したやつなので、みないで—————（恥）¥¥¥¥

その5

「で、生徒会って具体的には何をするんですか？」

『・・・・・・・・・・（汗）』

やべえ、生徒会って基本何もしてねえ！なんて言おう・・・よし、ここは正直に・・・。

「ページ稼ぎに駄弁ってます（汗）」

『お前らのほうがよっぽどよくねーーーー』

「まあ、ハヤテさん達にはただただしゃっべてもらえばokです！ナギたん？」

「やめろそれ」

「でわ、明日からよろしくお願いします」

「・・・・・・・・」

.....

.....

「・・・ここ大丈夫かな？」

その5（後書き）

きょうは、変態のおこるやっきにく・・・？なーんてね

その6（前書き）

いよいよ本編に近づいてきました・・・。

その6

それは、すこし前のお話……。

「ハヤテー、碧陽学園とやらから手紙が来てるぞー」

「おじよーさまー、今手が離せないので、内容読んでもらえますか
ー」

「わかったー」

ここは、旧ナギの家。なにせ少し前の話だから……。

「えーっと、ハヤテ様、ナギ様、私達碧陽学園生徒会とコラボして
みませんか……だってよー」

「つづきは何て？」

「明日の夕方4時に碧陽学園の生徒会室でおまちしております
桜野くりむより」

「じゃあ、明日とりあえず行ってみますか。それから、どんなこと
をするか聞いてみましょう?」

「えー……?めんどくさいよー」

「碧陽学園つてたしか生徒会の一存の舞台になってるところですよ」

「うん、明日が楽しみだ」

「・・・・・・」

こうして、ハヤテたちは、生徒会にくることになったのだった。

その6（後書き）

へたくそですが、見てください。

その7

「と、いうわけで今にいたります。なので、よく分からないままここにいるのですが、とにかく駄弁っ

ていればいいんですね？」

。 次日、ハヤテさんが一通りここに来たわけを話したが……………

「会長……………？」

「な、何かな杉崎よ…（汗）」

「会長でもやっていいことと、悪いことがあるのは知っていますよ……………ね……………？」

「う、うん」

「ハヤテさんの話を聞く限り、これは相当やってはいけないことかと……………」

「だつて……………」

会長が黙り込む。またまた涙目だ。会長、なんかめっちゃ可愛い。ナギたんもハヤテさんも他のみんな

も、なんか背景がピンク色だ。

「ま、まあ今回はもうしょうがないんで思いっきりコラボを、楽しみましょう！」

「杉崎……」

と、いうわけで次回へ続く！

その7（後書き）

やっと、次回本編かける・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8815y/>

ハヤテの一存

2011年11月27日19時53分発行